システム要件定義成果物サンプル&ガイド DS-204: バッチ機能要件定義

第1.10版

2018年08月29日

1. 概要

システム機能一覧からバッチに関するシステム機能を抽出し、個々のバッチの機能要件を定義する。バッチ機能要件定義は、「バッチ一覧」で構成される。

2. 使途

- お客様と以下を合意する。
 - ・システムで必要となるバッチが、網羅的に定義されていること。
 - ・個々のバッチの処理概要、実行条件、処理サイクルなどの定義が妥当であること。
- バッチ一覧のバッチ処理概要をインプットに、論理データモデル定義のエンティティ・属性項目の検討を行う。

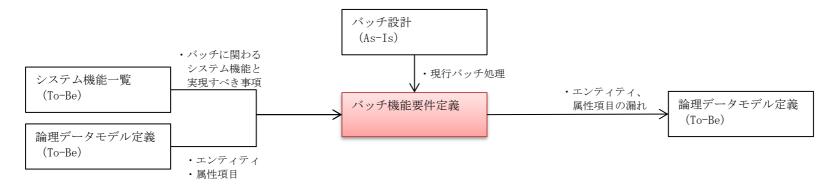
3. 記入要領

(1) バッチ一覧

システム機能一覧から抽出したバッチ機能を、バッチ実行単位に分割して一覧化する。

No	記述内容	記述内容説明	補足
1	システム機能ID	システム機能一覧から抽出したバッチに関するシステム機能 I Dを記述する。	
2	システム機能名	システム機能一覧から抽出したバッチに関するシステム機能名を記述する。	
3	バッチID	プロジェクトで取り扱うバッチを一意に特定するためのIDを記述する。	
4	バッチ名	プロジェクトで取り扱うバッチを一意に特定するための名称を記述する。	
5	インプット	バッチのインプットとなるデータ(エンティティ名、ファイル名など)を記述する。	
6	バッチ処理概要	バッチ処理の目的・概要を記述する。	・何をインプットに、どういった処理を行い、何 をアウトプットするのかを考慮して記述すると良 い。
7	アウトプット	バッチのアウトプットとなるデータ(エンティティ名、ファイル名など)を記述する。	
8	実行条件	バッチを実行するための前提条件を記述する。	
9	起動方法	バッチ処理の起動方法(スケジュール、オンラインなど)を記述する。	
10	処理サイクル	バッチ処理のサイクル(日次、月次など)と処理開始時刻を記述する。	
11	処理終了期限	バッチ処理を終了する最終期限(デッドライン)を記述する。 ※第3営業日 09:00 など。	
12	処理件数	バッチの処理件数(通常時、ピーク時)を記述する。 ※必要に応じて、処理対象毎の件数を記述する。	
13	ピーク特性	バッチの処理件数に対するピーク特性(ピークになるタイミング・傾向)を記述する。	
14	関連業務ルール I D	バッチ処理で考慮が必要となる業務ルールを、業務要件定義時に作成した業務ルール定義から 抽出し、その業務ルール I Dを記述する。	

4. 他成果物との関係



5. 表記例

1. バッチ機能一覧

システム機能 I D	システム機能名	バッチID	バッチ名	インプット	バッチ処理概要	アウトプット	実行条件	起動方法	処理サイクル		処理終了期限	処理件数		ピーク特性	関連	備考
									サイクル	時刻	処理於 期限	通常時	ピーク時	ヒーク特性	業務ルールID	1
AAAA30	個人会員仮登録削除機能	BAAAA3010	個人会員仮登録削除バッチ	・顧客マスタ	一定期間放置された個人顧客の仮登録情報を削除する。	・顧客マスタ・顧客アカウント構成・アカウント・個人	前処理:DBデータバック アップ処理が正常終了して いること。	スケジュール	日次	0:15	=	5	-	_	=	
AAAB30	個人会員退会機能	BAAAB3010	個人会員退会バッチ	・会員退会申請	退会予定日が到来した個人顧客の退会処理を行う。	・顧客マスタ	_	スケジュール	日次	0:00	当日中	2	10	毎月月末日	• BRD0098	
CCAB10	会計システム向け 売上実績連携機能	BCCAB1010	会計システム向け 売上実績集計バッチ	・売上 ・売上明細	前月の売上情報から会計システム向けの売上集計処理を行う。	• 売上集計	-	スケジュール	月次(第5営業日)	0:30	第5営業日 23:00	150, 000	200, 000	毎年3月	• BRD0110	
		BCCAB1020	会計システム向け 売上実績データ作成バッチ	・売上集計	売上集計情報から会計システム向けの売上実績データを作成する。	・売上実績データ	前処理:BDAAA2010が正常 終了していること	スケジュール	月次(第5営業日)	1:00		50, 000	70,000		_	
		BCCAB1030	会計システム向け 売上実績データ転送バッチ	・売上実績データ	売上実績データを会計システムに転送する。	_	前処理:BDAAA2020が正常 終了していること	スケジュール	月次(第5営業日)	1:15		1	-		_	
										·						